

令和4年度 第2回鈴鹿市立図書館協議会 会議録 【概要】

日 時 令和5年3月15日(水)午後13時30分～15時30分

場 所 鈴鹿市立図書館 視聴覚室

出席委員 10名

(会長) 林佳代子 (職務代理者) 木村由美子

(委員) 衣斐弘行, 後藤敏博, 井上哲雄, 岡山裕香
伊藤明, 矢田正春, 浅井和代, 阿原康子

出席職員 5名

地域協働課長 江藤大輔, 図書館長 藤田満珠美, 主幹 小河若司,
富澤秀明, 副主査 松本つかさ

1 議長の選出

〔鈴鹿市立図書館条例施行規則第24条第2項の規定に基づき, 委員の互選により選出。〕

会長及び議長に林佳代子委員を選出。

2 職務代理者

〔鈴鹿市立図書館条例施行規則第24条第4項の規定に基づき指名。〕

職務代理者に木村由美子委員を指名。

(事務局) 〔会議成立の報告(半数以上の出席)及び会議の進行概要について説明。〕

〔議事録の作成について説明。〕

3 議題

(事務局) 〔(1)図書館サービス方針の改定について説明。〕

(議長) ここまでで, 質問はありますか。コロナという予測できない事態になり, 何年も前の数値指標を当てはめるのは困難で, 目安としてのものだと思うが, 皆さんいかがか。

(衣斐委員) 大半が目標値に達していない。

(議長) 大活字の本の貸出は, 目標を超えている。なぜか。

(事務局) 大活字本に関しては, ふれあいライブラリーや高齢者の方に好評で, 目標を超えている。

(議長) 郷土に関してはどうか。

(衣斐委員) 郷土関係は, ほとんどネットや現地に行って調べることが多くなった。特別なコーナーを設けたりすることも, これからは必要だと思う。鈴鹿では, いくつも掘り起こせる。考古博物館でも, 古墳

の発掘など特集すると、遠方からも来る人がいる。図書館でもそういった資料を展示することも必要だと思う。

(矢田委員) 12・13 ページの資料の年間来館者数について。現状値と館長の説明が違ったように思うが。説明の方が、だいぶ多かったように思うが。

(事務局) 資料の数値は、計画を策定したときの現状値で、説明で申し上げたのは令和3年度の値。把握している最新の来館者数は、令和3年度になるので、その数値を現状値としている。

(矢田委員) そうすると、かなりかけ離れた数値を目標としているのではないか。

(事務局) コロナで閉館していた時があったため、入館者数は減っている。

(矢田委員) たくさんの利用者が来館して、たくさんの蔵書を置くことを目標にするのは結構だが、目標としての数値と現状値があまりにもかけ離れている。その点はどう考えるか。

(事務局) 直近3年間で見ると、平成31年度はコロナ前ということになるが、目標値に近い、年間30万人にはなっている。

(矢田委員) 資料の数字は、目標ということですね。

(伊藤委員) 高専の図書館でも閉館していた時があったので、学内の報告では、開館日あたり何人、何冊という計算をしている。今回は方針の改定ということで、総数は確かに大事だが、数値を見ると、開館日数に対する来館者や貸出冊数は、そんなに減っていないことがわかる。

(事務局) 予約本の受け取りという形で、中には入っていないけれど利用はあった、という日も開館日に入れているので、当てはまらない部分はある。

(伊藤委員) 運用については、現状を知っている方にしてもらうことがいいと思う。

(議長) そういった方法もあるということで、参考にされては。

(事務局) 参考にさせてもらう。

(議長) ほかに。

(伊藤委員) アンケート結果の資料について、まとめるのはかなり大変だと思う。最近では、スマートフォンを使っている人が多いので、アンケートの方法については、スマホで答えられる形にすると回答率も上がるし集計も早くなる。注意すべきは、回答方法が変わると比較がしづらい。また、紙のアンケートは満足している人が回答する傾向があるので、満足度的には下がると思う。

(事務局) 参考にさせてもらう。議題2で挙げているが、従来は、来館者アンケートということで行っていたが、今回は広く意見を集めるために、紙に加えて、グーグルフォームを使ったアンケートを予定している。

(議長) ほかに資料を見て意見は。

(木村委員) 貸出可能数は5冊で、今までも増やしてほしいという声がある。県内62館ある中でも蔵書数が少ない図書館以外、10冊借りられない図書館はないと思う。増やしてもらえないか。利用者アンケートでもそういった声があると思う。

(事務局) これからの検討課題として考える。

(議長) 今のサービス推進方針の中に「常に改善してチャレンジする意識を持ち」とあるので、ボランティアの意見として出たものは改善していったほしい。ほかには。

(伊藤委員) 図書館が目指すのは、本を借りてもらうことだけではなく、図書館の資料を使って、知識を与え読書の機会を与えることだと思っている。図書館のホームページを見たが、青空文庫についてリンクされており感動した。こういった著作権切れの資料について、もっと情報発信するため、館内に掲示してはどうか。また、推進方針の中にも、固有名詞を記載することはできないかもしれないが、読書を習慣化する方法として、追加してはどうか。

(議長) 私も娘に聞いて青空文庫を知った。そういうところからも、若い人たちに刺激を与えられたらいいですね。

(木村委員) ほかの図書館でも、青空文庫を読むためのタブレットを貸出しているところもある。館内に掲示してもいいのではないか。

(事務局) 県内でも電子図書を入れているところはあるが、本格的な電子図書は鈴鹿としても難しいので、システム更新の機会にホームページに青空文庫のバナーを入れた。広報すずかにも掲載した。

(議長) ほかに意見は。

(井上委員) 第一回協議会でも意見したが、返却に関して、借りた本は借りたところでしか返すことができない。人気のある本は読んだらすぐに返し、次の人に借りてほしいと思っている。だが、現状は公民館で借りた場合は公民館でしか返すことができないのでどこでも返せるようにしてほしい。

(事務局) システムの問題で難しい。

(議長) ほかに意見は。

(事務局) 蔵書数の目標として、36万5千冊を挙げているが、現状は書架や

書庫にも、本がぎゅうぎゅうで取りづらいという声も上がっている。
現状より蔵書を増やすということは難しい。

(木村委員) そういう現状に関しては、利用者にも周知した方がいいのではないか。

(議長) 本は重たい。自分の家でも、地震があっても大変だし、限度というものがあるので、説明してわかってもらった方がいいと思う。将来的には、新しい図書館を建てるということも含めて考えてほしい。

(井上委員) これからの図書館のあり方について、飲食をすることができるスペースを作るなど、複合化するという構想はあるか。

(事務局) 公共施設政策課というところがあり、鈴鹿市全体の建物の計画をしている。図書館のほかにも、昭和 50 年代にて建てられた建物が多くあり、そちらが計画していく。亀山市や四日市市の図書館は、駅前開発という形で新築されているが、鈴鹿市に同じような計画があるかどうかは、現時点で把握していない。

(井上委員) ハード面はそうだが、運用面ではどうか。

(事務局) 複合化は考えていない。二階ロビーに関してはコロナ以前のように飲食できるようにしようと考えている。

(井上委員) 市民としては、本を読みながらくつろげる場所ができるとありがたい。

(議長) ほかに意見は。なければ、次の議題をお願いします。

(事務局) 〔(2)図書館サービス推進方針の改定に伴うアンケートについて説明。〕

(議長) 今の説明を受けて質問は。

(岡山委員) 子供が小学生の間は、図書館を一緒に利用していた。今は中学生になった。昨日初めてホームページを見たが、子供たちはホームページを見る機会はなかなかないと思う。ホームページに行きつくまで、アンケートに興味を持っている方は限定されるのでは。学校などに送ってもらったら、答えてもらえるのではないか。

(事務局) 周知方法に関しては検討中です。

(伊藤委員) アンケート方法は、紙とホームページ両方で良いか。利用者アンケートにルビが振ってあるが、ルビが必要でない人にとっては読みにくい。逆にルビが必要な人にとっては、アンケートの内容が難しい。ルビが必要な人を想定するのであれば、表現を変えたほうが良いのでは。

(矢田委員) いつもの利用者アンケートを、今回は変更したということか。江島は満足度が非常に高いが、本館は低い。要因はどう考えるか

(事務局) もともと、江島は児童書がメインであり、一般書もその親世代が読むような選書をしていて、ターゲットがはっきりしている江島分館と本館を比べるとこのような結果になっていると思う。

(矢田委員) 比率としては確かに子供が多い。今説明にあったように児童向けの活動がメインだから満足度が高いということか。

(事務局) そうです。

(議長) 江島分館で、本の楽しさを知った子供たちが、大きくなって本館に来てもらったら理想ですね。ほかに意見は。

(井上委員) 鈴鹿市公式ラインの運用が始まったので、そちらを利用してアンケートを取ったらどうか。

(事務局) 検討します。

(議長) ほかに意見がなければ、議題(3)その他に関しては何かあるか。

(伊藤委員) 去年の協議会で家康に関して発言したが、その後大河ドラマが「どうする家康」だった。先の大河のものを先取りして、特設コーナーを設置したらどうか。

(事務局) 特集コーナーというのは、毎月閲覧室で行っている。特集するためには、本がかなりいる。今の提案も参考にさせてもらう。

(木村委員) 以前駐車場の草に関して、刈ってほしいと要望したが、綺麗になって良かった。あと、ふれあいライブラリーの車について、かなり古い公用車を使っているの、もう少し華やかにできないか

(事務局) 予算のかかることはできないが、マグネットシールなどで対応できたらと思う。

(議長) ここに来る人は、こういう図書館にしたい、良くしたいという思いが強い。自分は長野出身だが、駅の近くに交流施設があり、本が置いてあって学生がくつろげる場所がある。その場所は、利用者がこんな場所が欲しいと、絶えず要望をし続けて実現したと聞いている。もし、こんな図書館が欲しいと出た声も広げていくと実現するかもしれない。ほかに意見は。

(矢田委員) 団体貸出とあるが、私の活動する音訳グループのような団体は、何冊を何日間借りられるのか。

(事務局) 構成人数×5冊、最大100冊まで30日間借りられる。グループでの貸出カードが必要。

(衣斐委員) 委員になって何年か経つが、二階の佐佐木信綱コーナーの展示がずっと一緒。郷土人物紹介のコーナーも、定期的に変えることも大事だと思うがどうか。顕彰会と取り決めがあって変えないのか。

(事務局) 図書館に展示しているものは、図書館所蔵のものなので展示でき

るが、ほかの郷土資料に関しては、文化財課が管理している。そういったものが借りられれば展示できるが。

(衣斐委員) いつ来ても同じ展示なので、変えたほうがいい。

(事務局) 二階のガラスケースは佐佐木信綱コーナーという常設のものであり、定期的に変える特設コーナーの役割は、一階のテーマコーナーでしている。

(衣斐委員) 郷土の人は信綱だけではない。たくさんいるので、ほかの方のコーナーを設けることも検討してください。

(伊藤委員) 鈴鹿高専では、新着図書がきたら、背表紙ではなく表紙が見える形で置いている。例えば、郷土の本も時々表紙が見える形で置いて、数行のポップを書くだけで、郷土の歴史や郷土愛が若い人に広がると思う。

(衣斐委員) キャッチコピーのようなものか。

(伊藤委員) そうです。民営化することがあれば、そういったことは得意だと思う。

(議長) ほかにないですか。では、終わります。